(2)　2組の実践

①　学級の実態

3年生4名（男子2名、女子2名）、4年生3名（男子1名、女子2名）で構成されている。遠城寺式乳幼児発達検査では、2歳1か月～3歳3か月の発達段階にあり、個人差・個人内差が大きい。てんかん、ダウン症、もやもや病など障害もさまざまで、集団参加に抵抗のある児童、多動な児童、健康管理が最優先される児童、行動の切り替えに時間を要する児童など個によって配慮のあり方も異なっている。また、人間関係においても、かなり配慮がいる集団である。

しかし、これまでの経験の積み重ねから、少しは見通しも持てるようになってきている。長時間の机上学習は難しいが、音楽や写真・絵カードなどの視覚に訴えるものを使ったり、身体を使う活動を取り入れたり、個々の興味・関心・実態に応じた教材を準備したりすることで、喜んでみんなと一緒に活動することができる。

身体を動かすこと、ごっこあそび、砂・水あそびのような感覚あそび、パズル、自転車パソコン、ボウリング、音楽、製作活動、調理・食べることなど、それぞれの好きな活動は多様で、拡がりは乏しいが、友だちと関わりあって楽しむことができる児童もいる。

②　指導の方針

・一人ひとりに寄り添って、興味・関心のあることを生かし、伸ばして、その子らしさが自信をもって発揮できるような題材・教材や場の設定を工夫する。
・見通しを持たせながら、無理のないステップで自主的に活動できるようにし、自分の力でできたという成功感・満足感を味わわせるようにする。

③　実践事例

－支援の工夫をしながら、一人ひとりが喜んでいきいきと取り組める学習を求めて－

単元名　いもほり宿泊

単元目標

・宿泊に関するいろいろな学習をしながら「いもほり宿泊」を楽しみに待つ。
・いもほりをして秋の自然に親しみ、喜んで調理活動や製作活動、買物学習に取り組む。
・学習を通して先生や友だちと一緒に行動し、楽しんで「いもほり宿泊」に参加する。
・宿泊を通して自分のことは自分でしようとする。

題材名「フルーツポテト」を作って、おいもパーティーをしよう

題材設定の理由

小学部では、日常生活の指導の充実を図るため、年2～3回宿泊学習を実施している。宿泊学習は、その季節に合わせた楽しい活動が盛り込まれており、親元を離れて先生や友だちと泊まるので、児童にとってはたいへん楽しい学習である。

今回の宿泊学習では、自分たちで掘ったさつまいもを使っておやつ作りをし、2日目の最後に迎えにきてくださったお母さん方と一緒に、おいもパーティーをすることにした。その前段として、校内の親しい先生を招いておいもパーティーをして楽しい一時を過ごし、宿泊当日のお母さんとのおいもパーティーを楽しみに待つ気持ちを高めたいと考え、この題材を設定した。

児童は皆、調理活動が大好きで、自分たちで作って食べる、さらに、自分たちの作ったものでもてなすことも喜んで取り組むことができると考えられる。しかし、手指の巧緻性はかなり未発達な児童が多く、個に応じた細やかな配慮や支援の工夫が必要である。

そこで、児童が自由に選べる場面を設定したり自由な活動を認めたり、個の実態に合わせた材料や道具の準備をしたりして、無理なく活動できるようにし、自分がもてなして招待した先生方に喜んでもらってよかったという成功感・満足感を味わえるようにして、お母さんとのおいもパーティーにつなげたいと考えた。

（―――――― はＰＬＡＮの段階の支援）

本時目標

(1) 自分たちが作ったおやつで好きな先生をもてなし、おいもパーティーを楽しむ。

(2) 切ったり盛ったりして、自分なりに楽しんでおやつを作る。

指導過程

本時では、一人ひとりが喜んでいきいきと取り組むことができるように、特に教師の意図とそれに対する具体的な支援を細かく分析して、指導にあたった。次に、指導過程の一部を述べたい。

（意）……教師の意図　（•）……それに対する支援

学　習　活　動	教師の意図・支援	児　童　の　様　子
・いもに関する歌をうたう。	（意）学習に楽しく取り組ませるために ・（略）	
1　好きな先生を招いて、おいもパーティーをすることを知る。	1　パーティーをすることを確認し、意欲付けを図りたい。 （意）おいもパーティーを早くしたいという意欲を高めるために パーティーの見通しを持たせるために 雰囲気を盛り上げるために ・スイートポテト（具体物）の提示 ・テーブルのセッティングによる雰囲気作り ・顔写真の利用 ・呼びかけ ・顔写真のついた目印を運ぶ活動	O子R子M男A子：招待していた先生方の顔を見つけて、H先生の名前を呼び、嬉しそうにしていた。テーブルに招待した先生の顔写真が付いた目印を運ぶのもはりきってした。 目印をテーブルに運ぶM男
2　おやつを作り上げて先生をもてなす。 ・作り方の説明を聞く。	2　楽しみながら、進んでおやつを作ったりもてなしたりできるようにしたい。 （意）見通しを持たせるために ・分かりやすく短い説明	H子：具体物を提示することで、すぐ「やりたいわ」と手を伸ばそうとした。材料や声掛けを適宜与えることで、スムーズに集中して取り組めた。

・手洗いをする。 ・入れたい果物を選ぶ。 （パイン　桃　りんご） ・果物を切る。 ・混ぜて盛りつける。 ・テーブルに運ぶ。 ・先生を呼びにいく。 ・一緒に食べる。 3（略）	・具体物（出来上がったもの切る材料）の提示 （意）意欲を持って活動させるために ・エプロンの着用 ・切りたい材料の選択場面の設定 ・親しみのある切りやすい材料の選択 ・その子なりの自由な活動の容認 ・好きな活動（切る・混ぜる）場面の設定 （意）成功感や満足感を持たせるために ・切りやすい材料の提示 ・運びやすい器の選定 ・十分な量の材料の準備 ・トレードマークや目印の使用	 切る活動に集中するＨ子 切った果物を入れるＲ子 Ｒ子：厚めのアルミカップを準備したが、入れるのが難しく「嫌だ。」と言い、教師の手助けも拒んだ。

〈選択場面の設定〉

黒板の絵カードを見て選ぶＯ子

カードを使って選ぶＴ男

反省と考察

・その場限りの楽しみに終わらず、楽しんで活動したことが次への活動や学習、目的とつながっていく指導計画を設定することが大切である。

・楽しむ活動の中にも基本的な生きる力の育成に関わる課題を明確にし、取り組ませることが必要である。課題を達成できた時に成功感・満足感を味わうことができる。

・スムーズにできる状況づくりばかりが支援ではない。児童の実態により、失敗する（つまずく）状況を作り、それを乗り越えてできたという成功感・満足感を味わわせることも大切である。乗り越えるための教師の手だてが大切な支援といえる。

・自己選択の場の設定については、単に選ぶというだけでなく、試行錯誤しながらでも選択するというより思考の過程をくぐった自己活動も考えていきたい。　（鹿田）

お母さんとのおいもパーティーを楽しむ子どもたち